

デンタルハイジーン 別冊

一番やさしい

SRP

上下左右・
前歯白歯すべての
部位に対応

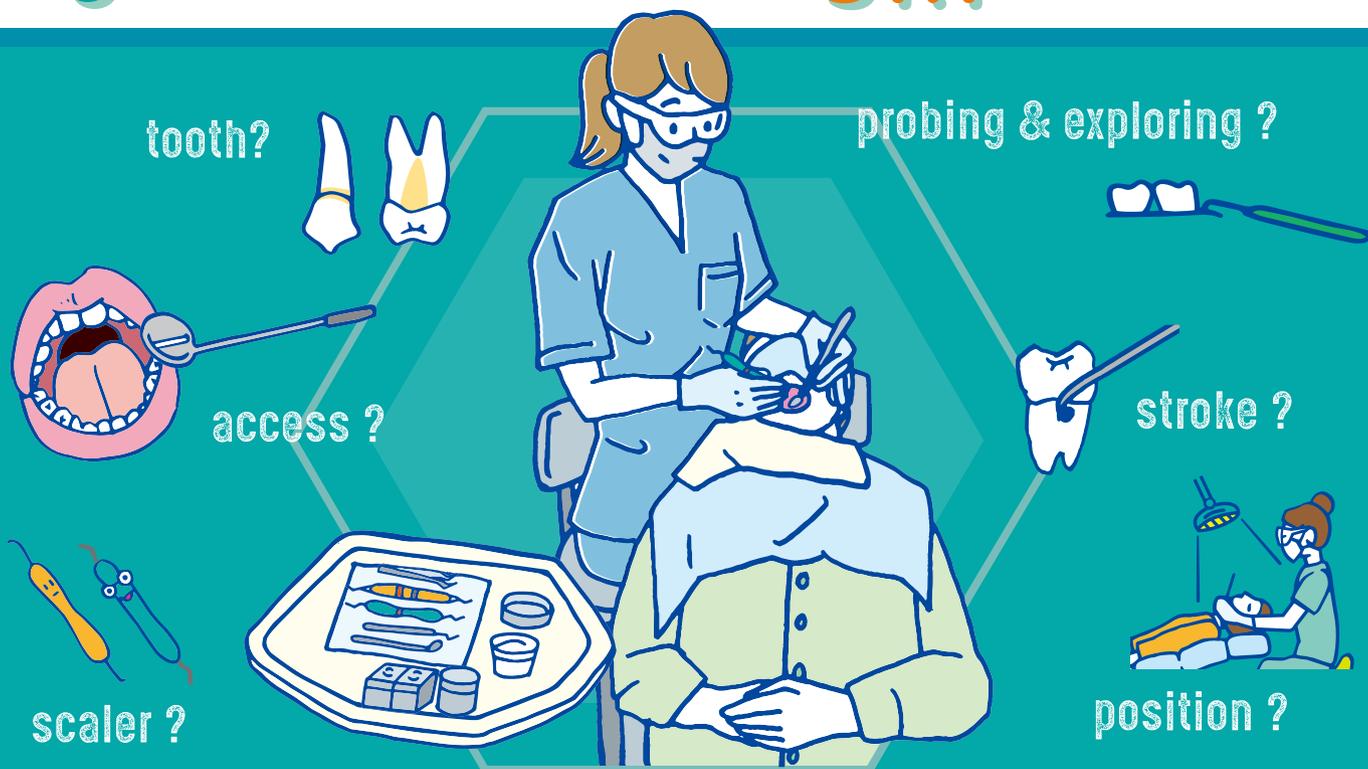


スケーラーくん

レッスン & アプローチ

編著 小森朋栄 塩浦有紀 筋野真紀 遠山麻以子 熊谷靖司

6つのステップで **SRP** がわかる!



解剖学的特徴

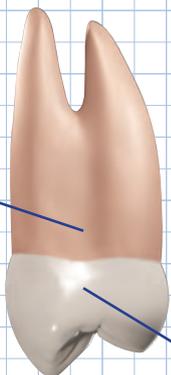
1 歯



頬側



口蓋側



近心



遠心

E 単根または2根（頬側根と舌側根）、まれに3根（頬側根が分岐）である

B 歯根は近遠心的に圧扁され、口蓋側の幅が狭い

F 根分岐が不完全なときにはみずかき状の形態になることもある

D 大白歯と比較すると、根の分岐はより根尖近くで起こる（分岐しない場合もある）

C 近心に根面溝がある

A 歯冠の近心歯頸部近くが陥凹している

2 探知

- ・近遠心、特に近心を注意深く探知しよう（**A**、**B**参照）
- ・近心に深い歯周ポケットがある場合は、根の陥凹の程度を探知して把握しよう（**C**参照）
- ・根分岐部があるか・ないかを触知してわかるようにしよう（X線写真では、頬舌的な根分岐部の状況把握は困難、**D**参照）



アプローチ 基本

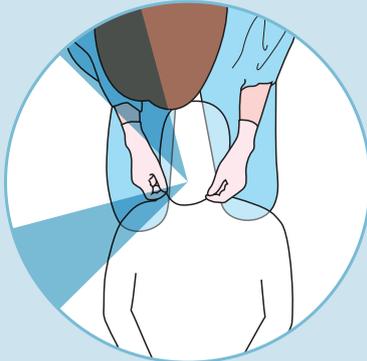


頬側 遠心

3 スケーラー → グレーシーキュレット #7/8

4 ポジション → 11時/8時

〈術者ポジション〉



〈患者さんの顔〉



右向き



チンアップ

5 口腔内でのアクセス



直視



ミラービュー



ポイント

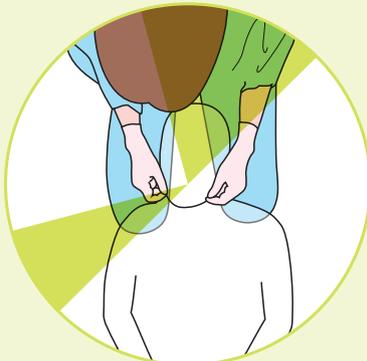
スケーラーを歯周ポケット底部まで進めたら、刃部内面が歯面に対して70~80°になるように起こして適合させる。このとき、第一シャンクが歯軸と平行になっていることを確認しよう。

口蓋側 遠心

3 スケーラー → グレーシーキュレット #5/6, #7/8

4 ポジション → 12~1時/8時

〈術者ポジション〉



〈患者さんの顔〉



右向き



チンアップ

5 口腔内でのアクセス



直視



ミラービュー



ポイント

ライトの位置は患者さんの胸の上方で、術者に近づけすぎず、かつ手が届く位置に調整する。

アプローチ 鍵

近心をどう攻略するか！



歯根近心部の炎症、
付着を把握しよう！

炎症の存在に注意

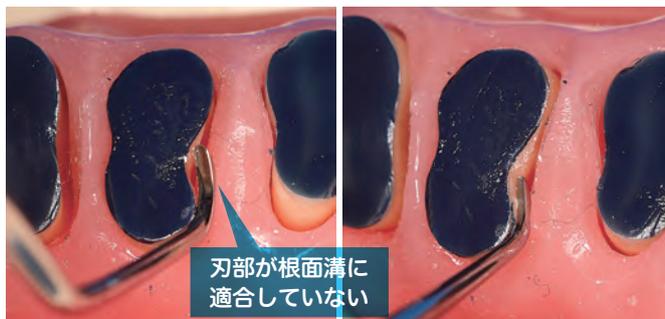
- 一般的に歯頸部にかけて近心中央部がくぼんだ形態をしている。プラークによる付着の喪失(アタッチメントロス)が起こると、歯頸部の陥凹から続く根面の溝に沿って炎症が存在し、歯周ポケットが形成される。付着の喪失がより根尖側方向に進行すると歯根の深い根面溝を触知できるようになる。



歯根近心の状態を
把握しよう！

根面の状態を確認する

- プローブを根面に平行に挿入し、プローブの先端が根面につねに接触している感触を維持することで、根面の形態、粗造感や歯石を触知することができる。



刃部が根面溝に
適合していない

根面への適合を考えよう

- SRP直前にプロービングで根面の状態とプラークの存在する範囲を再確認する。その情報から根面に適合すると思えるスケーラーを選択する。
- 左：注意深く歯周ポケットに挿入してみて適合しなければ、スケーラーのシャンクの長さ、刃部の幅、太さを再考する。
- 右：スケーラーの刃部が根面の根面溝形態に適合している。



初診時



2	1	5	5	1	6
3	4	6	9	6	3
	4			3	

赤字：BoP (+)

54歳女性，既往歴なし，喫煙なし．⑥5④，③の頬側および口蓋側隣接面に歯肉の発赤，腫脹が認められ，痛みを伴っていた．43隣接部に深い歯周ポケットが存在し，X線写真より4近心に根面溝が認められる．歯科医師による診断は広汎型慢性歯周炎であった．

本症例の注目箇所 その1

口蓋側の歯根近接

1 歯

口蓋側の歯根は頬側と比較してやや尖った形態であり(図1-右)，歯石を取り残しやすいため注意します．

2 探知

本症例では，図1で再現したように口蓋側で43の歯根が近接していました．また，プラークと環状歯石も触知できました．4の近心口蓋側はPPD6mmで，骨欠損は垂直的です(図1)．



図1 探知

探知／下顎大白歯



Contents..... (塩浦)

- ・ 深掘り! 「探知」
- ・ 解剖学的特徴 「下顎大白歯(67)」
- ・ アプローチ 「下顎右側大白歯(76)」
- ・ アプローチ 「下顎左側大白歯(67)」



深掘り!

探知



SRPの際は、しっかりと探知をし
歯周ポケットのなかの状況を
必ず把握するようにしましょう。

1. 探知って何をしているの？

「探知」とは、隠されているものを探って知ることです。エクスプローラーの先端から伝わる細かな振動で歯肉縁下の状況・状態を感じとります。歯石の性状や分

布、患歯固有の形態、歯根面の性状、齲蝕の有無などを把握することで、硬組織・軟組織を不必要に傷つけないSRPが可能となります(図1)。



①歯石の性状や分布

歯石がどこに付着しているか？
歯石の表面のザラつきはどんな感じか？
どのくらいの量がついているか？



②患歯固有の形態

標準的な解剖学的特徴とは異なる患歯特有の形態である場合も多い。探知をしながら、標準とどう違うかをイメージする



③歯根面の性状

歯石でなく歯根面自体がザラついているのか？軟らかい感じがするかなどを感じとり、SRPをどこで終わらせるかの参考にする

図1 これらを意識しながら探知しよう